



広報 **たはら**

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2015
平成27年

1.15

しわの数だけ
しあわせが!

目次

「しみんの広場」

避難所宿泊体験 2
まちなか賑わいづくり実行委員会
今月の花「レイコのコレイいね」

地域の話題
市民活動を応援するページ

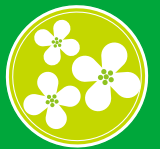
スクールリポート 6
学校生活の1コマを紹介

たはらシティニュース 7

連載コーナー 8

おしらせ 10

歴史探訪クラブ 12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 広報サポーターだより……………2ページ
- 伊良湖岬観光協議会・レイ「のこレイいね」……………3ページ
- 地域の話題(田原中部校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

田原市防災キャンプ

避難所宿泊体験

私たちがもし災害に遭い避難所生活をするようになったらどうなるでしょうか。

今回は、童浦小学校の防災キャンプの様子をお届けします。



広報サポーター
大久保ゆり



● 応急手当の訓練を受ける児童

今年度は、福江・清田・泉・童浦・若戸・田原中部小学校の6校で行われました。

童浦小学

校では、初めての訓練をしました。数人のグループに分かれ、消防署員から三角巾で



● 消防団員の補助を受けて三角巾を縛る児童

患部を固定する方法や、患部を直接縛る直接圧迫止血法などを学びました。

子どもたちがうまく固

定できずにいると、消防団の方が手を添えてくれるなど、地域みんなで協力して行っていました。

次に、電気のない生活体験をしました。

災害時には電気や水道が使えないのか分かりません。ペットボトルに水を入れ、それをシャワーのように利用し、

顔を洗いました。

夜は、ホールの床に段ボールを敷いてエアコンを切って就寝し、朝は、アルファ化米とカップに入れたインスタントみそ汁を朝食として食べました。

その後、自主防災会の方と、市民館の隣りにある備蓄倉庫の備品を見学し、発電機やハンマーなどを確認しました。飲料水兼用耐震性貯水槽からポンプを押して水を出す体験もしました。



● ポンプを押す児童

キャンプ後の子どもたちに話を聞くと、「怪我をした人がいたら友達と協力して助けてあげたい」「夜寝る時は枕元に懐中電灯を置いて寝るようにするよ」などと頼もしい声があがりました。災害時に、彼らは自ら手当するなど、活躍してくれることでしょう。

担任の先生が、「避難所では多くの人が生活をしていて自分の思い通りになるとは限らない。相手の話を否定し

投稿 中山保育園

老人福祉施設慰問

毎年、12月に老人福祉施設の慰問を行っています。生活発表会の踊りを披露したほか、お年寄りの方に肩たたきをしたり、プレゼントを渡したりしました。汗をかきながら一生懸命肩をたたいていると、お年寄りの方の中には涙を流して喜んで下さる方もいました。これからも続けていきたいです。



● 生活発表会の踊りを披露する園児

な

ないで大切に聞き、そのあと自分の考えを言うことが大切なんだよ」とおっしゃっていました。

子どもだけでなく、私たちも心に留めておきたいことですね。

● 若戸小学校の防災キャンプの様子は、4頁の地域の話題でご紹介します。



●サンタクロースの衣装を着て、バラの花を手渡し高校生ボランティア

こんにちは。まちなか賑わいづくり実行委員会委員長の柴田光晴です。この委員会では市民の有志による団体で、平成17年度から、まちなかの賑わいづくりやまちづくりの活動を行っています。

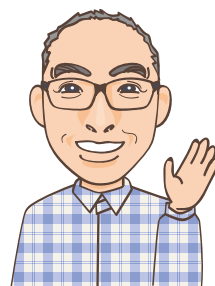
市民発!

投稿

まちなか賑わいづくり実行委員会

イベントを通して

まちなかの賑わいづくり

まちなか賑わいづくり
実行委員会委員長
柴田光晴

しむことのできるイベントを開催しています。

昨年の12月13日には、三河田原駅前などのイルミネーション設置場所を中心に「サンタが街にやってくる」を開催し、多くの親子連れの方々に楽しんでいただきました。イベントには、地元の高校生ボランティア16名が参加し、駅の乗降客にバラの花を配るなど大活躍でした。

次のイベントは、2月22日に開催する「さわやかウォーキング」に合わせて、「葉の花イベント」を企画しています。ぜひ、私たちと一緒に、まちを盛り上げましょう。まちなかの賑わいづくりに参加してみたいという方は、お気軽に事務局までご連絡ください。

▼まちなか賑わいづくり実行委員会事務局(株式会社あつまるタウン田原内)
石田トオル ☎24局2345

今月の花

レイコの花 いね 8

▶農政課 ☎23局3517

◎愛妻の日からはじまる花を贈る3カ月



フラワーバレンタインを推進している花の国日本協議会では、花を贈る3カ月間として、「花贈り」の推進を行っています。1月31日の「愛妻の日」からはじまり、「フラワーバレンタイン」「ホワイトデー」と花贈りのきっかけを提案しています。

「愛妻の日」は、妻という最も身近な存在を大切にする人が増えると世界がもう少し豊かで幸せになるかもしれない、という理想のもと日本愛妻家協会が行っている活動です。

田原市では周年栽培している花も多く、冬でも多くの花が生産されています。また、冬の時期は切花でも持ちがよく、長期間楽しむことが出来ますので花を贈る時期としてはオススメです。



1月の 渥美半島の花と鉢花



リシアンサス

(花／出荷時期:10月～7月)

花ことば

優美、希望

色や形も豊富な花で、県内1位の生産量、約200万本出荷されています。



デンドロビウム

(鉢花／出荷時期:10月～4月)

花ことば

わがままな美人

耐寒性も強く育てやすい花で、約3万鉢出荷されています。



▲スライム作り(青少年子ども教室)



▲若戸小学校児童によるブラスバンド演奏(市民館まつり)

地域の話題

若戸校区

地域力を生かして安心して暮らせるまちづくり

さまざまな行事などを通じ、地域の結びつきを大切にしている
若戸校区コミュニティ協議会からお便りが届きました。



泊体験も行いました。

若戸小での防災キャンプ

今年度は、地域の一大イベントとして定着した「市民館まつり」をはじめとして、「校区ふれあい会」「青少年子ども教室」などさまざまな行事を行いました。こうした行事を通じて、大人と子どもたちとの交流が図られ、地域の結びつきが一層強くなっています。

ふれあい防災教室

平成25年度から始めた、まだ新しい行事です。

自主防災会を中心に、市民館に避難した住民全員で、非常持ち出し袋の中身を確認したり、防災倉庫を見学したりしたほか、備蓄品の確認および機器の取り扱いについての講習会を開催しました。また、防災勉強会を行い、炊き出し訓練、避難所宿

今年度は、若戸小学校と合同で、9月5日(金)～6日(土)に、若戸小学校5・6年生を中心に防災キャンプを実施しました。参加した児童たちは、自分たちで話し合って考案した避難所の居住空間を実際に設置して宿泊体験をしました。また、防災DVDを使った学習会やリラクゼーションなどの体験をしました。



▲児童による避難所の提案発表(ふれあい防災教室)

ち出し袋のことなど改めて家族と話し合いたい」「防災に対する意識が高まってよい」などの意見が聞けました。

若戸校区では、今後も防災教室などを実施することで、地域、学校および家庭が連携しながら、地域全体の防災意識向上と地域防災力の強化を図り「住民(人々)が安全に、安心して暮らせるまち」になるようにしていきたいと思っています。



▲ビニール袋を利用した三角巾講習(ふれあい防災教室)





市民活動を応援するページ



イベント紹介

第12回あつみNPOの集い

出会う 広がって 深め合って…ネットワーク!

●平成26年度市民活動向上事業補助金採択事業

あつみ NPOネットワークは、田原市内のNPOが会員となっており、NPOや市民活動団体がそれぞれの活動を充実させるための講座、研修会などを企画運営しています。会員相互の交流と活動の充実と発展をめざして「第12回あつみNPOの集い」を開催します。

キーワードは「一緒に楽しく活動しよう!」。多くの市民の皆さんのご来場をお待ちしています。

日時：H27/2/8 日 10:00～16:00

場所：渥美文化会館 多目的ホール ラウンジほか

内容：10:00～16:00 手作りバザー、フリーマーケット、模擬店など

10:00～13:00 パネル・ブース展示

10:00～12:30 ステージ発表（活動発表、団体紹介）

13:00～15:00

◆オープニング 渥美太鼓「願成観音太鼓」

◆基調講演「100人の村 わたしが生きる あなたと生きる」

講師：池田香代子氏

（ドイツ文学翻訳家 口承文芸研究家「世界がもし100人の村だったら」著者）

15:00～16:00 「みんなでティータイム」

入場料：無料

▶主催：あつみNPOネットワーク（ANN）

事務局 ☎090-9226-1977（北原） ☎0531-32-3963（森下）



イベント報告

第8回どすごい交流会in蒲郡



▲どすごいレンジャーと参加された皆さん

様子を発表し、東三河の市民活動団体のみなさんも、熱心に発表を聞いていました。

午後からは、NPO法人グランドワーク三島専務理事兼事務局長の渡辺豊博氏による記念講演、東三河5市の市民活動団体による活動発表、市民活動団体と高校生との交流会が行われました。

若者への有効な情報発信方法やボランティアの経験談など、市民活動団体と高校生がお互いに情報交換をすることができ、今後の活動に繋がる有意義な交流会となりました。

東三河の市民活動団体の活動情報やボランティア募集情報は、「どすごいネット」で見ることができます。ぜひご覧ください。 <http://genki365.net/gnkh02/pub/index.php>

東三河の市民活動交流イベント!

東三河 5市（田原・豊橋・豊川・蒲郡・新城）で活動する市民活動団体が集まり、交流を深めるイベント「どすごい交流会」。今回は12月6日（土）に蒲郡商工会議所で、愛知県高等学校文化連盟ボランティア専門部と連携して開催されました。

午前中は愛知県高校生ボランティア発表愛知県大会が行われました。県内の9校の生徒が日ごろの活動の

田原市民活動支援センター

<http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

☎ 22局 1111（内線 812）※開設時間のみ

FAX 23局 0180 ☎ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp

メールマガジン配信中です!

センターから市民活動に関する新鮮な情報を随時、お届けします。配信ご希望の方は、メール本文に「メール配信希望」とご記入の上、左記センターアドレスへメール送信ください。





スクールレポート

SCHOOL REPORT 76

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校での「オリジナルキャラの活躍」と中学校での「縦割り班活動」の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局 3679

清田小学校「オリジナルキャラ“きよたん”大活躍」

優しい笑顔で、学校と地域を明るく元気に！

本校では、子どもたちから「オリジナルキャラクターを作りたい」という声上がり、図案と愛称を募集しました。こうして、誕生したのが清田小オリジナルキャラクターの「きよたん」です。春に校庭を囲んで咲く桜の花びらと、潮干狩りをするきれいな青い海のイメージから生まれ、愛嬌のある笑顔が特徴です。清田のよさが表れています。

運動会で初登場したときは、歓声上がり、すぐに人気者になりました。あいさつ運動や交通指導では、児童会役員や地域の方と一緒に校門に立ち、元気なあいさつで呼びかけました。地域の祭礼にも特別出演しました。学芸会では、劇に登場して懸命の演技で注目を浴びました。今や学校だけではなく、地域の人気者です。

子どもたちは、「きよたん！」と気軽に声をかけたり、スキンシップをしたりするなど、子どもたちの笑顔が増え、あいさつの声も大きくなってきました。

これからも、「きよたん」の優しい笑顔で、校区全体を明るく元気にしていきます。



▲あいさつ運動に参加する「きよたん」

赤羽根中学校「心をつなぐ生徒会縦割り班活動」

全体が一体となって、心をつなぐ



▲新入生歓迎会でのゲームの様子

赤羽根中学校では、3学年を混ぜた4チームの縦割り班を編成し、行事などでこのチームで活動することがよくあります。縦割り班活動は、3年前から始まり、生徒会が中心となって運営しています。

特に、新入生歓迎会、体育大会、文化祭で、この縦割り班活動が力を発揮します。

新入生歓迎会は、入学したばかりの1年生が早く学校に慣れ、全校生徒が先輩後輩の垣根なく活動できるように、班の中の自己紹介や縦割り班対抗ゲームをして楽しみます。

体育大会では、生徒会種目として縦割り班対抗ゲームが行われます。職員も一緒に参加して声を出し、手と心をつなぎ、楽しみます。

11月に行われる文化祭では、本校独特の取り組みがあります。それは「赤中LIVE」というコーナーです。決められたテーマで、縦割り班全員が協力して寸劇を創ります。舞台の上で動作をする役と、舞台下で台詞を言ったり効果音を出したりする役に分かれます。学年に関係なく、個性を尊重して役割が決められ、見ている人に笑い感動を与えられるように、奮闘して演技します。

縦割り班活動は、学年を超えて心をつなぐ活動ととらえ、これからも大切にしていきたいと考えています。



▲文化祭で劇を演じる生徒たち

12月8日【月】

地元農産物の味
引き立てる工夫

加工品・料理コンテストが開催されました。地元農産物のおいしさをもっと知ってもらおうと毎年開催されているこのコンテスト。今年はキャベツを使ったレシピを募集し、過去最多の179点の応募がありました。優秀作品は、商品化なども検討されています。



▲審査の様子 【最優秀賞】「加工品の部」渡會あかねさん(成章高2年)／田原キャベツのモンブラン「料理の部」大羽真理さん(東神戸町)／キャベつくね

12月10日【水】

いじめ、命の尊さ
人権を学ぶ

人権授業が田原中部小学校で開催されました。2年生、4年生を対象に、人権擁護委員を講師として行われたこの授業。紙芝居や歌、DVDなどを使って「弱い者いじめ、うそつきはなぜいけないか」「命の尊さとは」など、全員で考えるきっかけとなりました。



▲講師の呼びかけに、元気に手をあげる田原中部小の児童たち

12月11日【木】

見て、食べて
市政の今を知る

市政びーある講座「市の新しい施設を見に行こう」が開催され、市民20名が参加しました。普段なじみのない市政を知ってもらおうと開催されたこの講座。参加者は給食センターで試食した後、リニュアルした蔵王山展望台で臨海部のメガソーラーなどの説明を聞きました。



▲地図を見ながら臨海部の新エネルギー集積地について説明を聞く参加者

たはらエコフェスタ in 渥美 同時開催

第2回 きらり☆宝市

2月15日(日) 渥美文化会館多目的ホール
正午～午後3時(品物がなくなり次第終了)

【品物引取り 午前10時～正午】

きらり☆宝市は、みなさんの家庭に眠っている「まだ使えるけど使わないもの」を譲っていただき、希望する人に無料で提供するイベントです。ちょっとエコなリユースイベントに参加しませんか？

■取り扱うもの ※田原市のご家庭から出たもので、自分で搬入可能なものが対象

衣類	おもちゃ	ホビー用品
洗濯済でまだ着られるもの 	ぬいぐるみ、知育玩具、木製玩具 	アウトドア・スポーツ用品 
生活雑貨	育児用品	家具
未使用の贈答品・日用品、新品同様の小物雑貨・かばん・帽子など 	マタニティ用品、ベビー用品 	カラーボックス程度の小物家具、衣装ケースなど 

※取り扱いできないもの 食料品、化粧品類、学生服、危険物(刃物・薬品など)、家電品、大型家具(一人で持ち運びができないもの)、汚れや破損が激しいもの

■提供方法

提供する品数を、種類ごとに数えてお持ちください。または、市ホームページからチラシをダウンロードし、品物受付票に品数をご記入の上、当日品物と一緒に提出してください。

■事前受付

当日の持ち込みが困難な方は、2月2日(月)から事前持ち込みを受け付けます。平日(午前8時30分～午後5時15分)に、清掃管理課(市役所南庁舎2階)へお持ちください。

■その他

- ・取り扱いできないものの持ち込みは、受け取りをお断りさせていただきます。
- ・提供した品物が残っても持ち帰りの必要はありません。
- ・提供数に制限はありませんが、持ち帰る数は一人につき3点程度とします。
- ・詳しくは、チラシをご覧ください。

▶ 清掃管理課 ☎ 23 局 3538 FAX 23 局 0180

HP <http://www.city.tahara.aichi.jp/>



▲ チラシQRコード

◆リユース自転車抽選会同時開催!

資源化センターに持ち込まれた自転車を抽選でお譲りします。

抽選券配布 ● 午前10時～午後0時45分

抽選会 ● 午後0時45分～

台数 ● 大人用4台、子ども用2台(予定)

- ・抽選券は、田原市在住の18歳以上(高校生は不可)の方1名につき1枚です。
※きらり☆宝市へ品物を提供いただいた方には、抽選券を3枚配布。
- ・自転車の当選は、1名につき1台とします。
- ・抽選会に不参加の場合は、当選無効となります。

昆山市と友好の大切さを確認

中国江蘇省昆山市(平成17年友好都市提携)

昨年9月27日から30日まで、田原市教育委員会から嶋津教育長ら2名が田原市の友好都市である中国・昆山市を訪問しました。

昆山市は上海圏に位置する人口200万の都市で、経済のエネルギーと中国の歴史が感じられる都市です。



●昆山市庁舎

●これまでの交流

昆山市と田原市は、平成18年から隔年に10人程度の中学生の交流を行っており、これまでに5回実施されています。しかしこの間、中国での地震で昆山市からの派遣が中止になったり、インフルエンザの流行で田原市からの派遣が中止になったりしたほか、日中の政治関係の不安定さなどから、交流は必



●昆山市にある中国一の水郷と称される周荘

ずしもスムーズとはいえません。

●これからの方向

今回の訪問はこうした状況の中で、今後の交流のあり方を話し合うために行われたものです。訪問中は、外事弁公室や葛江中学校(田原市との交流学校)で、昆山市の副市長や教育局長と率直な意見交換を重ねました。そして「子どもたちが直接触れ合い、それぞれの国の文化や生活が感じられる交流の場をつくることは大切」と確認しあい、引き続き中学生の交流を行うこととしました。

▶政策推進課

☎23局3507



●嶋津教育長(左から3人目)と昆山市副市長(同4人目)

連れてくることは可能です。平成26年6月に環境省が発行したガイドラインではペット同行の避難を推奨しています。これは動物愛護だけでなく、被災者である飼い主の避難を支援することなどの観点に

もいいますか？

■避難所にペットを連れて行って

必要な食料などを持参してください。

ケースとペットボトルの水は風水害避難所に、毛布は校区防災倉庫に配備してあります。しかし、これらは突発的に災害が発生した場合など、避難準備ができなかった方のために配備しています。台風などあらかじめ避難準備ができる場合は、できる限り避難者自身で必要な食料などを持参してください。

りますか？

■避難所に食事や毛布の用意はあ

りますか？

前回、避難について掲載しましたが、いくつか質問をいただいたので、今回はそれらにお答えします。

前

回は、避難について掲載しましたが、いくつか質問をいただいたので、今回はそれらにお答えします。

しろちゃん

防災知恵袋

10

みんなで取り組む防災・減災



よるものです。

ただし、鳴き声や臭いなどでトラブルとなる可能性があることや、アレルギーなどで動物は受け入れられないという他の避難者がいる可能性もあります。

このため、避難所ごとに具体的な受け入れ場所やルールを定めるので、必ずしもペットと同居できるとは限りません。ご理解とご協力をお願いします。

また、避難所にペットを連れてくる場合は、次の点にご協力ください。

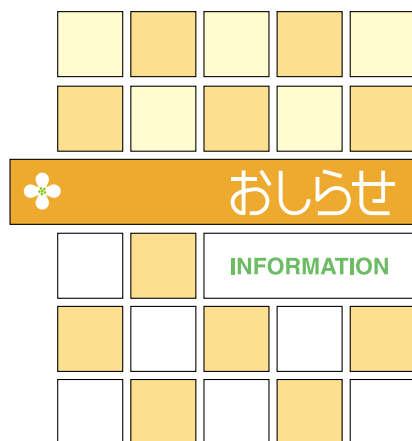
● 基本的なしつけや予防注射を受けていること。

● 食料や排泄袋など、飼育に必要なものは、飼い主自身で準備すること。

● 普段ケージで飼育している場合は、ケージも持参すること。

▼ 防災対策課 ☎23局3548

http://www.city.tahara.aichi.jp/



MEMBER OF COMMITTEE

委員

人権擁護委員

人権擁護委員に、山内靖子さん（江比間町）と森下静子さん（小中山町）が法務大臣から再委嘱されました。任期は平成27年1月1日から平成29年12月31日までの3年間です。

▼地域福祉課

☎ 23局 3512 FAX 23局 3545



WANTED

募集

防衛大学校学生（一般後期）

▼応募資格 平成27年4月1日現在、18歳以上21歳未満の方 ▼試験日 Ⅱ【第1次試験】2月28日（土）Ⅱ【第2次試験】3月13日（金） ▼募集人員 Ⅱ【人文・社会科学専攻】約10名【理工学専攻】約30名 ▼申し込み Ⅱ1月21日（水）～30日（金） ※詳しくはお問い合わせください。

▼自衛隊豊橋地域事務所

〒441-8016 豊橋市新栄町南小向41

☎ (0532) 33局 2693

✉ aichipotoyohashi@rtcgslmod.go.jp

愛知県消費生活モニター

消費者行政に関する意見・要望などを寄せいただく消費生活モニターを募集します。

◆モニターの主な仕事

- ・日常生活の中で危険と思われる商品・不当な表示・悪質商法・生活必需品の価格動向などの観察・通報

- ・アンケートへの回答（年1回程度）
- ・生活必需品などの需給・価格調査
- ・消費者行政に関する意見・要望の提出

- ・地域・周囲などへの消費生活に関する情報の提供

- ・研修会（年1回の予定）への出席

▼対象 Ⅱ県内在住の満20歳以上の方（公職者を除く） ▼任期 Ⅱ4月の依頼日～平成28年3月31日 ▼謝礼 Ⅱ年額3000円以内 ▼申し込み Ⅱ2月18日（水）までに商工観光課または東三河県民生活プラザにある申込用紙（県ホームページからもダウンロード可）に必要事項を記入し提出 ▼東三河県民生活プラザ

☎ (0532) 52局 7337

Ⓔ <http://www.pref.aichi.jp/kennin/shohiseikatsu/bout/monitor.html/>

▼商工観光課

☎ 23局 3522 FAX 22局 3817

あいちシルバーカレッジ豊橋学生

▼対象 Ⅱ県内在住の昭和30年4月1日以前生まれの（満六十歳以上）の方（過去に在籍した方を除く） ▼期間 Ⅱ4月1日（水）～平成28年3月の30日間 ▼場所 Ⅱ豊橋市民センター ▼定員 Ⅱ文化教養学科90人 ▼授業

料 Ⅱ年額2万3000円（予定） ▼申し込み Ⅱ2月13日（金）までに専用往復ハガキを郵送 ▼その他 Ⅱ専用往復ハガキは、募集パンフレットとともに田原市役所高齢福祉課、田原市社会福祉協議会で配布 ▼愛知県社会福祉協議会福祉生がいセンター

☎ (052) 212局 5521

地産地消のランチセミナー ホテルで味わう豊橋・田原の旬

▼日時 Ⅱ2月24日（火）正午～午後2時 ▼場所 Ⅱホテルアークリッツ シュ豊橋 ▼内容 Ⅱ豊橋・田原産の特選素材を生かした地産地消のランチ、シェフや生産農家の講話 ▼定員 Ⅱ25名（申込者多数の場合は抽選） ▼参加料 Ⅱ3500円（食事代） ▼講師 Ⅱ今里武さん（ホテル総料理長）ほか ▼申し込み Ⅱ2月2日（月）までに講座名、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入の上、電話またはファックス、Eメールにて

▼豊橋田原広域農業推進会議事務局（〒440-8501住所不要） 豊橋市役所農業企画課内）

☎ (0532) 56局 5130

✉ info_nogyokikaku@city.toyohashi.lg.jp

Ⓔ <http://www.toyohashi-tahara.jp/>

生活

豊橋・田原 産直・農業体験 スタンプラリー

▼期間 2月22日(日)まで ▼内容

「あぐりパーク食彩村、サンテパルクたはら、JA豊橋・JA愛知みなみの販売店などにあるスタンプを集めて応募すると、抽選で賞品が当たります」 ▼賞品 地元産牛しゃぶしゃぶセット、農産物セット、商品券、ペア食事券など ▼応募方法

2月24日(火)までに3つのスタンプを集めた応募用紙を持参または郵送にて ▼応募用紙 豊橋・田原市役所のほか、各ラリースポットで配布

▼豊橋田原広域農業推進会議事務局(豊橋市役所農業企画課内)
(〒440-8501住所不要)
☎(0532)51局2471



2014・東三河大会 青少年のための科学の祭典

▼日時 1月24日(土)・25日(日)

午前9時30分～午後4時30分 ▼場所 2014年度未来館ここにこ(豊橋市松葉町3丁目1番地) ▼内容 ①実験工作ブース(水・工作・エネルギー・ふしぎ・実験の5テーマ29ブース) ②サイエンスステージ ③特別出展・実演(ミニロボコン操縦、お宝を探そうなど)

▼(公財)中部科学技術センター科学技術普及部
☎(052)231局6723

「家庭の日」県民運動 2月1日(日)～28日(土)

家庭はかけがえない生活の基盤であり、子どもが人としての生き方を学ぶ最も大切な教育の場です。家族のふれあいを深め、家族全員が明るく楽しくゆとりある充実した日々を送ることができるよう、明るく対話のある家庭づくりに向けた「家庭の日」県民運動を実施します。



▼スローガン 親と子の対話がくる よい家庭 ▼実施事項 1月31日～2月6日 啓発ポスター展 田原文化会館【2月15日】家庭の日 コンサート/田原文化会館【期間中】

広報・啓発活動

▼文化生涯学習課

☎23局3635 FAX 22局3811

第11回農畜産物フェア

「食べて良し見て良し笑顔にさせる花いっぱい田原」

今年も、地元農業者による自慢の農畜産物即売を中心としたPRイベントを開催します。

専門農家の野菜、畜産物、花を直接農家から購入できます。渥美半島の農畜産物を題材とした「子ども絵画コンテスト」の表彰式のほか、ご当地アイドルの「La花ノたみ」もイベントに参加します。ぜひご家族でお越しください。



▼日時 2月15日(日)午前10時～午後2時 ▼場所 サンテパルクたはらサンテドーム ▼内容 農畜産物の即売、バター作り、寄せ植え、風づくり、餅つき、地元農産物を使った大鍋、各種模擬店、イベント、子ども向けゲーム、農産物加工品販売、子どもの農畜産物絵画コンテストの表彰式

▼農業者のつどい実行委員会 田原アグリベース(東三河農林水産事務所田原農業改良普及課)
☎22局0381 FAX 23局1304

縦覧

計画段階環境配慮書 都市計画構想段階評価書

豊橋田原ごみ処理広域化計画に基づき推進しているごみ処理施設整備事業の計画段階において、環境保全に配慮すべき事項を検討し、以後の環境影響評価に反映する「計画段階環境配慮書」と、社会面、経済面などを検討し、都市計画の概略案を総合的に評価した「都市計画構想段階評価書」が作成されましたので、公表します。

▼公表日 1月29日(木) ▼縦覧場所 清掃管理課(市役所南庁舎2階)

▼豊橋市環境部施設課

☎(0532)46局5304

▼清掃管理課

☎23局3538 FAX 23局0180

歴史探訪

其の 163
History Inquiry Club

文化生涯学習課 ☎ 23局3635
FAX 22局3811

サツマイモと渥美半島

現在の田原市は、日本を代表する農業生産を誇っています。そのきっかけとなったのは、豊川用水の通水のみならず、農業経営者の皆さんの努力にほかなりません。

さて、田原市の農業の大発展を説明し比較するときに、渥美半島はかつて「水が少なくやせ地のため、以前はイモとムギしか作ることができなかった」と説明されました。イモとムギの栽培、人間の食を支えるこの作物が、貧しさにつらさの代名詞的な扱い

● 童浦農協澱粉工場の従業員と積まれたサツマイモ(昭和20年代後半／鈴木博さん提供)



をされるのはかわいそうです。

現在、田原市の農作物は、花卉、露地野菜などが頭に浮かびますが、決して「サツマイモ」は主要な農作物ではありません。しかし、昭和24年発行の『渥美の地理』(渥美郡教育会)には渥美半島のサツマイモ(甘藷)の栽培を「甘藷の国渥美」という章をたて、今では考えられないほど盛んであった渥美半島のサツマイモ栽培を記

しています。

その理由を、「戦前に渥美半島で盛んだった養蚕が、昭和はじめの世界恐慌とともに衰退し、蚕用の桑畑が甘藷畑として利用されるようになった。また、渥美半島の地質はやせ地、暖かい地というのも甘藷の栽培には適している」としています。当時、渥美半島は愛知県で一番のサツマイモ生産量でした。また、このサツマイモを加工する澱粉工場数も県内一で、昭和21年には、38%が澱粉加工用となっていました。

サツマイモの生産の多い渥美半島には、戦後の食糧不足のため、買出しに多くの人たちが訪れました。当時の渥美線の賑わいは、渥美半島に「イモ景気」に湧いたともいわれました。まさに「サツマイモの国」だったわけ

です。田原市は明治33年に鈴木菊次郎による画期的な方法で改良・発展した水飴・飴菓子、ゼリーの生産が盛んでした。昭和のはじめころ、森永製菓の原料飴は、東京の会社と田原市の伊藤製飴でまかなわれたほどでした。さらに、サツマイモの生産と澱粉加工が拍車をかけ、田原市の水飴生産は

ますます発展しました。

渥美半島は「飴」のまち、大げさにい

えば、「隠れた甘味のふるさと」でもあったのです。豊橋周辺の佃煮も、砂糖の代わりに渥美半島のサツマイモを原料とした水飴を使い「照り」が特徴の佃煮を開発しました。食には地域の歴史が隠されているのです。

田原市の産業発展の歴史にサツマイモの存在は重要だと考えます。そこには渥美半島の地勢を利用した、先人の努力が見えます。その精神を受け継ぐことは、今後の田原市の発展につながるのではないでしょうか。

(増山)



今月の「表紙」

▼長い人生山あり谷あり。それを笑顔で乗り越えてきたお年寄りの顔にはたくさんのしわが刻まれています。そのしわは人生の勳章のように見えます。これからも笑顔のしわを刻めるようお年寄りが安心して暮らせる街にしなければいけないと思いました。(O)

【表紙の写真】高齢者福祉施設慰問(中山保育園)